

2013年 夏号

## 第82号

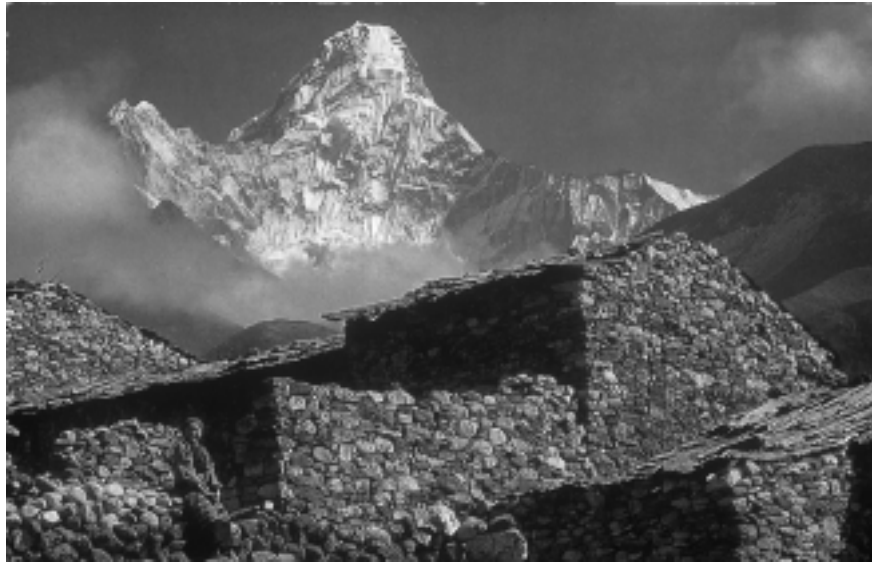
僧伽編集委員会

〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

経教はこれを喩ふる鏡のごとし  
しばしば読みしばしば尋ねれば  
智慧を開発す

『観経疏』

『観経疏』  
七高僧のお一人である善導大師の著作。親鸞聖人の師である法然上人が、念仏に帰依するきっかけとなった書物でもあります。



## ガラパゴス日本

徳法寺 杉谷 浄

私はまだ旧式の携帯電話を使っていますが、最近スマートフォン（通称スマホ）を使っている人を見かけることのほうが多くなってきました。このスマホに対して、従来の携帯電話を「ガラケー」と言うようです。これはガラパゴス携帯の略で、当たり前のように使っていた日本の携帯電話が、太平洋の小島で生物が独自の進化をしたガラパゴス島のように、日本で進化した日本ではか通用しない携帯電話だったという意味だそうです。一方のスマホは世界基準となっているもので、ガラケーからスマホへの移行は、日本だけの常識から世界の常識への以降という見方もできるのかもしれない。

上の写真は、ネパールにある、世界で最も美しい山のひとつといわれるアマダブラム山です。「母の首飾り」という名のこの山は、標高六八一二mもありますから木は一本もなく家も石造りです。

実は日本で見慣れた木々で覆れた山々というのは、世界でも稀な景色なのです。日本列島は「温帯雨林」という特異な環境下にあります。温帯でこれだけ多くの雨が降るのは、日本以外だと、カナダ西海岸やオーストラリアの一部ぐらいしかありません。日本列島自体が世界遺産レベルなのです。温帯で雨が多いということは植物にとっても動物にとっても最適です。これは、人間にとっても最高の環境です。しかし、人間が増えてくると伐採や開発で多くの木々が姿を消してしまいました。世界の森林面積の減少は温暖化を招き、国際問題となっています。ところが日本では、江戸時代から森林面積が広がっているのです。

日本の常識は世界の非常識ということは意外と多いのかもしれない。少し広い視野を持たなければ本当の姿は見えてこないのかもしれない。

# すぎたカズト



## 道に迷えば道を識る

二〇代半ば、もう四半世紀前の事、旅の途中、どこかの山門に「今月の言葉」として書かれていた。

当時、バイクに乗っていたが、旅の供に選んだのは「サイクル野郎」タイプの自転車だった。バイクなら、狭い日本列島の事、端から端まで三日も走れば辿り着いてしまうような気がしたのだ。

漠然と、それまでの日常に退屈し、ひと月ほど流れ歩いてみたかった。幸い、物書きとして駆け出しの頃でもあり、旅の途上で休

み休み原稿用紙を埋め、見知らぬ町の郵便ポストから投函すれば生活にも事足りる環境にあった。

知人からツーリング仕様の自転車を安く譲り受け、ギアを含む消耗品を組み直し、「自分の」自転車とするためにも、さっそくフレームを好みに塗り直した。

「好きな色は？」と訊かれると、天の邪鬼な私は「綺麗な色。鮮やかな色」等と答える。その時の気分や状況にもよって落ち着いた色、うっすらとした色、

暗く沈んだ色にも気が行く時もあるが、概ね、目も醒めるような鮮やかな色が好きだ。特定の色を答えないのは、色にはそれぞれ良さがあって、ひとつに絞る切れないからだ。

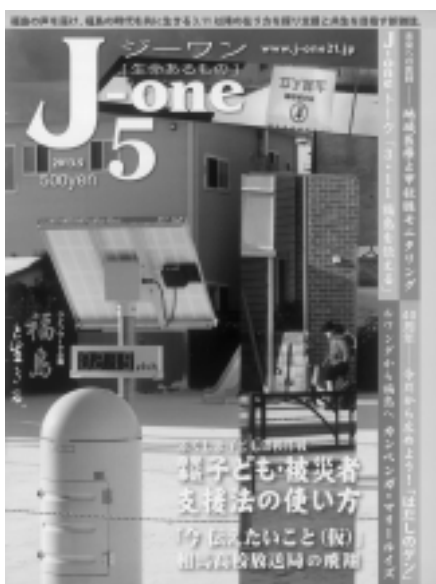
そんなものだから、黒部溪谷の断崖に人ひとり通れるだけ作られた水平歩道に誘われ、登山靴を新調した時は「自分らしく」と靴紐を交換したけれど、蛍光のピンクとイエローを二色買つて、結局、紫の靴に片方ずつ色違いで結びあげた。

その時、気づいたのは、靴紐は片方ずつ違うが、ふたつの足が胴に繋がって、ちようど「人」という文字になる。どうも自分は方向違いの事をふたつ（あるいは、それ以上）やり散らかす癖があるが、時の流れを経て見ると、びたりと符号してひとつの道筋を見い出せる事がある。

例えば、私手がけている、南アジアの文化に傾倒

し長らく北インドの映画を紹介して来た情報誌「ナマステ・ボリウッド」と、東日本大震災以降、国内の状況とこれからの生き方を模索すべく始めた新雑誌「J-one (ジーワン)」だ。時に自分でも方向性が違うように戸惑うが、どちらも生きる智慧を探索しようとの試みだ。なるほど道に迷っても、無駄となる道は何ひとつない。

さて、自転車はグラデーシオンで虹色に仕上げ、認識性を高めた事もあつてか、九州までひと月の旅を事故もなく走り切った。北海道の最果てまでが残っているが、あえて行っていない。まだ旅の途中、という気分であるために。



J-oneのお求めは、インターネットまたは徳法寺まで

すぎたカズト 紹介  
一九六四年生まれ、東京都出身。十代から絵画、文筆、自主映画制作等、様々やり散らかす。八〇年代後半よりライターとなり、ネパールなどを旅する一方、福島岩手、長野などを転々と暮らす。二〇〇一年よりヒンディー語インド映画の紹介サイト「ナマステ・ボリウッド」を、二〇〇六年より紙版をスタート。東日本大震災の後、福島の声届け、これからの生き方を探る支援・共生型の新雑誌「J-one (ジーワン)」を個人で創刊。主な共著に「ちようどキケンなひとり旅」(イカロス出版)、「三国志読本」(角川春樹事務所等)がある。

# 真宗人物伝 第三十一回

常德寺 西山 彰

源信僧都

―早熟の英才を導いた賢母の教え―

七高僧の第六祖である

源信僧都は、天慶五年（九四二年）、大和国（現在の奈良県）北葛城郡当麻に生れた。幼名は千菊丸という。

僧都は、七歳の時に父と死に別れ、その遺言によって出家する身となった。

九才の頃、近くの小川で鉢を洗う僧を見て次のような問答をしたといわれる。

「お坊さま、向こうの川の方がきれいですよ」

「すべてのものは、淨穢（えど）は不二じゃ。きれい、きたないは凡夫の心の迷いじゃ。このままでよい、よい」

「それじゃ、どうして鉢を洗うの？」

「……」

数日後、比叡山から使い

が来て、利発な千菊丸の出家の話が決まった。問答をした旅の僧の勧めによるものだったという。

これは幼少のころの千菊丸の機智と才能を示す逸話の一つである。

ともあれ九才の千菊丸少年は、天曆四年（九五〇

年）、比叡山に登り、当時の碩学良源僧正の門に入った。そして十五歳にしてその英才が師良源に認められることとなる。村上天皇の命により、宮中において『称讃浄土経』の講義を行うことになったのである。この講義が評判を呼び、彼は若くして名声を博すこととなった。

その業績により、源信は帝より織物など褒美の品を賜った。彼は大変感激してこれを郷里の母に送った。ところが、母の反応は、意外なものだった。母はそれらの品を受け取らなかったばかりか、次のような和歌を添えて返してきたのだ。

「後の世を渡す橋とぞ思ひしに 世渡る僧となるぞ悲しき」

後の世の人々を導く橋になってほしいと思っていたのに、世渡りばかりが上手な僧となってしまう。悲しいことだ。という意味であろう。

息子が名聞利養の道におちいるのを母は憂いていたのである。この思いを受け止めた源信は、名利の道を捨てて横川の首楞嚴院にこもり、もっぱら仏道の修行に励むこととなった。

その後師匠の良源僧正の示寂をきっかけに『往生要集』一部三巻の執筆に取り掛かる。これは数多い経論の中から往生極楽に関する要文を選集したもので、寛和元年（九八五年）

三月に完成した。源信四十歳のとときの大作であった。引用文献の多きでは、七祖の書物の中で第一といわれるこの書物を、わずか六カ月で書き上げたといわれる。彼は、この書の中で全仏教を踏まえて念仏を明らかにしたのである。

このころすでに三千人もの良源の門弟の中で学解の第一人者と目されていた源信だったが、この『往生要集』は、海を渡り中国でも評価され、広く読まれることとなった。宋の皇帝もこの書に大いに感激し、源信僧都自筆の画像を安置してこれを敬礼したと伝えられている。

一方で寛弘二年（一〇〇五年）、一条天皇より権少僧都の位を賜るが、名誉を好まず、これをかたく辞退して学道に精進したのであった。若き日に受けた母の教えを生涯忘れることがなかったのである。

寛仁元年（一〇一七）、

七十六歳にて示寂する。臨終にあたっては阿弥陀如来像の手に結びつけた糸を手にして、合掌しながら入滅した。

親鸞聖人の伝記である御伝鈔の第一段に「とこしなえに楞嚴横河の余流をたたえて」という一節がある。これは単なる風景の描写ではなく、聖人が比叡山で修行をされた際、いかに源信僧都の影響が大きかったかを物語っているのである。



# 和讃に学ぶ

第四十三回

徳法寺 杉谷 浄

## 弥勒菩薩

仏教経典には多くの如来・菩薩・天・明王が登場します。ほとんどの仏教諸宗派が複数の如来や菩薩などを礼拝の対象にしているのに対して、真宗は阿弥陀如来以外を礼拝しません。これは、真宗の教えの中には阿弥陀如来以外の如来や菩薩・天が登場しないということではありません。真宗で読まれる経典の中にも多くの菩薩衆や天が登場しますし、親鸞聖人の和讃にも何人もの菩薩衆が詠まれています。他の宗派と違うのは、その役割なのです。そのお一人である弥勒菩薩を通してその意味を確かめてみましょう。

弥勒菩薩といえ、国宝

第一号である京都・広隆寺の弥勒菩薩や、かつて五十円切手の図案となっていた奈良・中宮寺の弥勒菩薩が有名です。元々のお名前はマイトレイヤといい、これが訛ってミロクとなったようです。日本語に訳すと「慈しみ」という名の菩薩」という意味となり、ここから慈氏菩薩という名でも經典に登場します。經典の上では、インドのバナシー国の生まれでお釈迦様の弟子となり、お釈迦様の次にさとりをひらかれて如来となることを、お釈迦様から約束された菩薩、という設定になっています。それでは、いつさとりをひらかれるのかというと、お釈迦様が入滅なさってから五十六億七千万年後であるというので

すから、ずいぶんと先の話です。真宗で最も大切にされる經典である『仏説無量寿経』では、お釈迦様から阿弥陀如来の教えを説き聞かされ、これを後世の衆生にも伝えるように託されるという形で登場しています。親鸞聖人がこの弥勒菩薩を詠んだ和讃が次のものです。

五十六億七千万

弥勒菩薩はとしをへん

まことの信心うるひとは

このたびさとりを

ひらくべし

この和讃は、弥勒菩薩がさとりを得ることができるとは五十六億七千万年先ですが、念仏の信心を得る人は今生でさとりを得ることができると詠ったものです。これですと、念仏者が弥勒菩薩より優れているように思われますが、そうではありません。自分の力(自力)でさとりを得ようとするならば、弥勒菩薩ほどの方でも五十六億七千万年かかるのだけれども、阿弥陀如来

の力(他力)によるならば、凡夫であつても今生においてさとりが得られるという意味です。

つまり、真宗にとつての

弥勒菩薩とは、私を救つて

くださる菩薩ではなく、未

来の衆生にお釈迦様に代

わつて阿弥陀如来を説いて

くださる存在ということ

です。真宗の中の諸菩薩はす

べてこのように、衆生を直

接救うというのではなく、

衆生に阿弥陀如来の教えを

勧めるという役割で登場し

ます。ですから、大切な方々

ではありますが、礼拝の対

象にはならないのです。

これに対して、弥勒菩薩

を礼拝の対象にする教えも

あります。ひとつは、お釈

迦様はすでに入滅しておら

れるし、阿弥陀如来のよう

に他の如来方は遙か遠くに

おられるので、現在弥勒菩

薩が修行しておられる兜率

天という天界に往生しよう

という教えです。来世思想

のひとつとして中国・朝鮮

半島・日本で広まりました。

広隆寺や中宮寺の弥勒菩薩は、この教えを信じる人たちによって礼拝されたものです。これを上生信仰といいます。

もうひとつの弥勒信仰は、

この世が弥勒菩薩がさとりを

得るに相応しい世界とな

れば、すぐにでも救世主と

して現れるという教えです。

これを下生信仰といいます。

この信仰は、世直しなどの

反社会運動となり、中国で

北宋の時代から清の時代ま

で勢力を誇った白蓮教が有

名です。日本でも戦国時代

に、弥勒仏がこの世に現わ

れて救ってくれるという信

仰が流行し、弥勒踊りとし

て今も関東・東海地方に広

く残っています。この影響

による世直しとしての百姓

一揆も多くみられました。

沖縄県では、今でも「ミ

ルク神」、「ミルクさん」と

して弥勒信仰が盛んです。

祭りでは、笑顔のミルク仮

面をつけたミルク神が歩き

回ります。海に向こうから

弥勒菩薩が幸をもたらすた



ミルク仮面

めに現れるという、沖縄独特の信仰です。中国では、唐の時代までは足を交差させ椅子に座る像として造像されましたが、元・明時代以降は七福神の一人である布袋さまの姿で表されるようになりました。

いずれの教えも、弥勒菩薩が何らかの利益をもたらすものとして礼拝の対象となつていきます。他にも観音菩薩や文殊菩薩などの菩薩衆それぞれにご利益をつけると、一つの寺院の中に複数の礼拝対象が安置されることになるのです。諸菩薩に何を求めるのかというところからも、真宗の特色が見て取れます。

## 真宗豆知識

### いろは歌

いろはにほへと

ちりぬるを

わかよたれそ

つねならむ

うゑのおくやま

けふこえて

あさきゆめみし

ゑひもせず

よく知られているいろは歌である。

この歌の作者は空海であるという説もあるが、それを裏付ける根拠はない。また『涅槃経』の中の無常偈の意識であるといわれているが、こちらの方は確かなようである。それは「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為樂」（諸行は無常であつてこれは生滅の法である。この生と滅を超えたところに、真の大樂がある）の意識であるといわれている。そんな深い意味があるのかと、改めてこのいろは歌

を読んでみると、なかなか味わい深いものがある。

まず、ここに出てくる「うゑのおくやま」（有為の奥山）であるが、『真宗新辞典』によると、有為とは、「因縁により生滅変化する一切の現象的存在。」とある。つまり、有為の奥山とは、無常の現世を、どこまでも続く深山に喩えたものなのである。

ではそのことを踏まえて、現代語訳を読んでみよう。

色はにほへど

散りぬるを

（どんなに榮華を誇つていても散つてしまうのだから）

我が世たれぞ

常ならむ

（我がこの世にだれが常住する人がいようか。なにも常なるものはない）

有為の奥山

今日越えて

（有為転変の迷いの世界を、今は超越して）

浅き夢見じ

酔ひもせず

（もう浅い夢は見まい、酔

いもすまい）

（竹村牧男 訳）

盛者必衰の無常の世にあつて、一切の現象的世界を超えて、寂滅の世界に至るという歌なのである。

ちなみに「浅き夢見じ」は「浅き夢見し」と表記されることもある。こう読むと、「し」は過去を著わす助動詞「き」の連体形となり、「浅い夢を見た」という意味になる。

もちろん「浅き夢見じ」ならば、「じ」は否定の助動詞だから、先の竹村牧夫氏のように「浅い夢を見ない」と訳されることになる。

どちらが正しいかについては、古来論議されてきたようだ。私個人としては、「浅き夢見し」のほうを支持したい。「浅い夢を見たが、その夢に酔うこともない」と解釈したいのだ。現象的世界を超えて、寂滅の世界に至ることも仏教の教えかもしれないが、無常の世に寄り添って生きることもまた、仏の説くところであると思うからである。

種を明かせば、いろは歌の作者を空海としたのも、「浅き夢見じ」と読んだのも真言宗の僧侶なのである。

やはり浄土真宗の門徒ならば、「浅い夢を見たが、その夢に酔うこともない」と読む方が自然だと思ふのだが、どうだろうか。（彰）

## 杉谷淨の

### ラジオ案内

七月二日(火)

八月六日(火)

九月三日(火)

十月一日(火)

F M N I (七十六・

三MHz)で午後一時半から一時間放送します。

番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝六時からです。インターネットでも聞けます。

## 本の紹介

## 『ランドセルは海を越えて』

写真・文 内堀タケシ

ポプラ社

一四〇〇円＋税

写真家の内堀タケシさんは、世界六十カ国あまりの国々を旅して、そこに住む人々の日常を撮り続けています。その内堀さんが二〇〇一年以降毎年訪れている国にアフガニスタンがあります。

アフガニスタンでは、旧ソ連軍が侵攻して以来、三十年以上にわたって、今でも内

戦が続いています。この間にかつて三蔵法師が豊かさを讃えたこの国は荒廃し、学校の校舎どころか机や椅子さえない地域が少なくありません。そこで、国際協力機関のジョイセフによって使い終わったランドセルを送る「想い出のランドセルギフト」という活動が二〇〇四年から始まりました。この十年間でアフガニスタンの子供達にとどいたランドセルは九万個を越えました。ランドセルはとつても丈夫に作られていますから、六年間使われた後でも十分に鞆として使えますし、何よりも机の代わりにもなるのです。

子供たちがいます。何も無い荒野の中で座って勉強している子供たちがいます。是非、この本を手にして子供たちの笑顔に出会ってください。子供たちの背中で、ランドセルたちの喜ぶ声まで聞こえてきそうです。ちなみに、写真のピンクのランドセルは、歌手の平原綾香さんのものです。

もし押入れの中にしまわれているランドセルをお持ちでしたら、この活動に参加してください。詳しくはジョイセフのホームページをご覧ください。ランドセル一つにつき、国内の輸送費の他に一八〇〇円の海外分の輸送費も必要となりますが、これだけの笑顔が生まれるのなら安いものです。

この本は、アフガニスタンに渡ったランドセルと子供たちの写真集です。この本の中には、日本から贈られたランドセルを手にして満面の笑みを浮かべた

ベルマーク協賛企業のクアレは、海外分の輸送費を負担するキャンペーンをおこなっています。国内の輸送費はこちらの負担となります。次回の応募受付は二〇一四年一月からです。こちらでもクアレのホームページ

## 各寺のご案内

## ◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

## ◎秋彼岸法要

九月二十三日(祝)

午後二時より

## ◎報恩講

十月十日

お逮夜 午前十時

お日中 午後一時半

## ◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二一四

☎二四一―五二一九

ジをご覧になつてください。ただし、めったにないのですが、もしランドセルに豚皮が使用されていきましたら、宗教上の理由で送ることができません。それと、ランドセルを贈る際に、中に未使用のノートや鉛筆を入れておいていただけると、子どもを願っています。(浄)

供たちの笑顔が何倍にもなると思っています。アフガニスタンの子供たちにとつて、勉強できるということは未来につながる希望なのです。この本を手にとつて見てください。そして海を越えて笑顔が広がることを願っています。(浄)

## ◎お講(石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師 七月 杉谷 浄

八月 藤場 一澄

九月 杉谷 浄

十月 桐山 信英

## ◎秋彼岸

野町和嘉写真展

祈りの大地、地球、

九月二十日(金)から

二十六日(木)まで

## ◎秋彼岸中日及び

永代経法要

九月二十三日(祝)

午後二時より

講師 藤原 千佳子氏

午後四時より

野町和嘉写真集より

語り あざみ ゆみこ氏